

# 検査項目の臨床的意義

2018年4月24日改訂

項目	臨床的意義
TP(総蛋白)	栄養状態不良や腎臓の障害などで低値となり、脱水症・膠原病・血液疾患などで高値となります。
ALB(アルブミン)	栄養状態不良や肝臓の障害などで低値となります。
AST(アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ)	特に肝臓や心筋に障害がおこると高値となります。
ALT(アラニンアミノトランスフェラーゼ)	A S Tとともに肝臓の障害などで高値となります。
LDH(乳酸脱水素酵素)	肝臓・心臓・骨格筋の障害や貧血などで高値となります。小児は、大人よりも高値となります。
ALP(アルカリ性フォスファターゼ)	肝臓・胆道系・骨の障害などで高値となります。小児は、大人よりも高値となります。
ChE(コリンエステラーゼ)	主に肝臓の病気の指標となります。慢性肝炎などで低値となり、ネフローゼ症候群などで高値となります。
γ-GTP(γ-グルタミルトランスペプチダーゼ)	肝臓・胆道系の病気の指標となり、特にアルコール性肝障害で高値となります。
T-BIL(総ビリルビン)	肝臓・胆道系の障害などで高値となります。
D-BIL(直接ビリルビン)	
AMY(アミラーゼ)	主に膵臓や唾液腺で作られ、膵炎や耳下腺炎(おたふくかぜ)などで高値となります。
BUN(尿素窒素)	腎臓の病気の指標となります。腎疾患・脱水・消化管出血・高蛋白摂取などで高値となります。
CRE(クレアチニン)	B U Nと同様に腎臓の病気の指標となります。腎不全・尿毒症などで高値となります。
eGFR(推算糸球体濾過量)	血清CREと年齢、性別より計算式で求められます。慢性腎臓病の早期発見に有用です。
UA(尿酸)	高値の状態が続くと痛風・腎臓障害などの原因となります。
CK(クレアチンキナーゼ)	骨格筋・心筋・脳などに障害がおこると高値となります。正常な人でも激しい運動後に高値となる場合があります。
T-Cho(総コレステロール)	高値の状態が続くと動脈硬化などの原因となります。
TG(中性脂肪)	コレステロールと同様、高値の状態が続くと動脈硬化などの原因となります。食事の影響を受けるため、空腹時の値を基準とします。
HDL-Cho(HDL コレステロール)	善玉コレステロールと呼ばれ、動脈硬化を防ぐ働きがあります。低値の状態が続くと狭心症や心筋梗塞などにかかりやすくなります。
LDL-Cho(LDL コレステロール)	悪玉コレステロールと呼ばれ、高値の状態が続くと動脈硬化などの原因となります。
L/H比	LDL-ChoとHDL-Choの比で、動脈硬化の進展に大きな影響を及ぼす因子となります。
項目	臨床的意義
Na(ナトリウム)	これらは電解質とよばれ、調節により体内の水分を一定の濃度に保っています。腎臓の病気、脱水などによりバランスが崩れます。
K(カリウム)	
Cl(クロール)	
Ca(カルシウム)	原発性副甲状腺機能亢進症などで高値となり、慢性腎不全などで低値となります。
IP(無機リン)	副甲状腺機能低下症・腎不全などで高値となり、ビタミンD欠乏症などで低値となります。小児は、大人よりも高値となります。
Fe(血清鉄)	貧血などの血液の疾患、肝臓の疾患などで値が変動します。
UIBC(不飽和鉄結合能)	
アンモニア	劇症肝炎・肝硬変などで上昇傾向を示し、正常の2倍になると意識障害をきたす場合があります。
CRP(C反応性蛋白)	体内に急性の炎症や組織の破壊があると高値となります。
RF(リウマチ因子)	慢性関節リウマチ・膠原病などで高値となります。
ASLO(抗ストレプトリジン-O)	溶連菌感染によって高値となります。
IgG(抗ヒト免疫グロブリンG)	多クローン性免疫グロブリン異常症、M蛋白血症などで変動します。
IgA(抗ヒト免疫グロブリンA)	
IgM(抗ヒト免疫グロブリンM)	
血糖	高値の状態が続く場合に糖尿病が疑われます。食事により影響をうけます。著しく低値の場合には意識を失うことがあります。
HbA <sub>1c</sub> (ヘモグロビンA1c)	1~2ヶ月前の平均的な血糖の状態を表し、糖尿病による合併症の指標となります。高血糖が続くと、HbA <sub>1c</sub> も高値となります。
トロポニンI	心筋梗塞の診断、心不全の予後判定に有用です。
BNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド)	心不全の診断、重症度、予後判定に有用です。
PCT(プロカルシトニン)	全身性の炎症を伴う細菌性敗血症で高値となります。
Free T3(遊離トリヨードサイロニン)	Free T3・Free T4は甲状腺、TSHは脳から分泌されるホルモンです。甲状腺機能亢進症・低下症で値が変動します。
Free T4(遊離サイロキシン)	
TSH(甲状腺刺激ホルモン)	
CEA(癌胎児性抗原)	消化器系癌のスクリーニング、腫瘍切除後や抗癌剤投与後の経過観察に有用です。
項目	臨床的意義
CA19-9(癌抗原19-9)	消化器癌、特に膵臓癌の診断に有用です。
PSA(前立腺特異抗原)	前立腺癌の診断に有用です。
WBC(白血球)	感染症や血液疾患などを調べる検査です。
RBC(赤血球)	貧血で低値となり多血症で高値となります。
HGB(ヘモグロビン)	
PLT(血小板)	止血に重要な役割を果たしています。低値で出血傾向、高値で血栓傾向となります。
トロンボテスト	凝固機能の検査です。肝障害・ワーファリン服用などで低値となります。
PT(プロトロンビン時間)	止血機能の検査です。肝障害・血液疾患・ワーファリン服用などで延長します。
APTT(活性化部分トロンボプラスチン時間)	凝固機能の検査です。肝障害・血液疾患・ヘパリン治療中などで延長します。
Fib(フィブリノーゲン)	血液凝固に重要な役割を果たしています。炎症や外傷における創傷治癒に関与しています。肝障害・DICなどで低値となり、感染症・悪性腫瘍・妊娠などで高値となります。
FDP	血栓症を起こす各疾患で高値となります。
Dダイマー	血栓症を起こす各疾患で高値となります。
ATⅢ(アンチトロンビンⅢ)	肝機能障害で低値となります。
赤沈(赤血球沈降速度)	組織の崩壊や炎症で亢進します。全身状態の把握に有用です。